

2025.6.12 (木)
第 45 回例会
(通算3807回)

2024-2025 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第86代会長 高橋 直人
副会長 吉田 英一
幹事 東堂 光春
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
 0154-24-0860  0154-24-0411

2024-2025 年度
国際ロータリーテーマ



2024-2025 年度
R1会長 ステファニー A. アーチック
第 2500 地区ガバナー
小谷 典之 (帯広西 RC)

本日のプログラム 会員卓話 北海道新聞社 釧路支社 支社長 三宅 康夫 君 (プログラム委員会)

次週例会 一年を振り返って (三役・四大委員長) (理事会)

- ロータリーソング：四つのテスト
- ソングリーダー：牧田 知也君
- 会員数 104 名
- ビジター
- ゲスト

会長の時間 高橋 直人会長



皆さん、こんにちは。冷涼な釧路ですが、これから夏本番を迎える前に、2025年6月1日より、労働安全衛生規則の改正省

令が施行され、職場における熱中症対策が義務化されます。条件を満たす企業は全て対象となり、対策を怠った場合は罰則規定があるため多くの企業で社内の熱中症対策を見直す必要が出て来るようです。

当クラブには池田社労士がおりますが、当社も関係がある改正なので詳しく調べてみましたのでお話いたします。

熱中症対策が義務付けられる作業所の条件、対象となる作業は 28 度以上、または気温 31 度以上の環境で連続 1 時間以上、または 1 日 4 時間以上の実施が見込まれる作業所です。

1. 報告体制の調整、整備。熱中症の自覚症状がある労働者がその旨を報告するための体制作りをする。熱中症の恐れがある労働者を見つけたら、その旨を報告する体制を作る。
2. 実施手順の作成。作業からの離脱、暑熱な場所での作業を中断させる。体の冷却、必要に応じた医療機関への搬送。
3. 関係者に周知。熱中症は体調や持病によって影響を受けるため、労働者だけでなく、熱中症の恐れのある

作業に従事するすべての関係者への周知が必要です。朝礼やミーティング、社内メール、社内掲示などを活用し熱中症対策の周知に努めましょう。

この対策を行わなかった場合は、6 カ月以下の懲役または 50 万円以下の罰金を科せられる可能性があります。

それと、労災事故の発生につながる可能性があります。企業の安全衛生管理体制の信頼が損なわれる可能性があります。

当社は、全てが当てはまりますので体制作りは終わりましたが、気を付けていただきたいと思います。今年も猛暑が予想されておりますので、会員の皆さまも再確認してください。

以上、本日の会長挨拶とします。今日も楽しい例会にしましょう。

新入会員紹介

スポンサー 浅川 正紳君



皆さん、こんにちは。久しぶりの出席ですから半分くらい知らない方がいらっしゃるかもしれません。私は浅川と言いま

して、新入会員ではなくて推薦人のほうですのでお見知りおきください。

新入会員のご紹介をさせていただきます。お名前が

本間弘人さん、もう入会されましたから君付けで行きたいと思います。

お仕事は丸什本間建設株式会社の代表取締役をされております。ご家族は、奥様とお二人暮らしです。お子さんは女の子、男の子が一人ずつで、もう成人されて独立されております。趣味は登山、スキーなど。ゴルフはたしなむというか大好きということで、ハンディは14とお聞きしています。私はゴルフをしないので分かりませんが、きっと、すごいのだと思います。マージャンもたしなむそうですから、すぐにでも溶け込むかなと思います。

また、本間君は数年前まで北クラブに所属をしておりましたが、業務が大変忙しくなったことから一度退会されたと聞いています。ホントはどうして辞めたのは、個別にゆっくり質問していただければと思いますのでお願いいたします。

本間君は某青年団体の理事長とか、商工会議所青年部でご活躍されておりましたので、こちらのクラブで同じ時期に活動された方もたくさんいらっしゃると思います。当時の仲間方も、少し年寄りの私たちからも「ピロト」と呼ばれて大変可愛がられていた、親しまれていたと記憶しておりますので、すぐにでも釧路クラブに溶け込むと思います。

推薦人は、高橋会長と私です。高橋会長年度に入会したいということで年度末ではありますがこの時期の入会となりました。

と言うように、大変真面目で少し頑固な熱い部分もありますが、ホントにいい男ですので皆さん、よろしくお願いいたします。

丸什本間建設株式会社 代表取締役 本間 弘人君



ただいまご紹介いただきました丸什本間建設株式会社の本間弘人と申します。歴史と伝統ある釧路ロータリークラブの入会

に際し、ご承認いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

この長きにわたり先輩諸氏が築いてこられました歴史と伝統を汚さぬよう頑張ったいと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。

歓迎の言葉 高橋 直人会長

本間会員、入会おめでとうございます。本間君とは30年来の友達です。公私ともにお付き合いさせていただいております。

釧路クラブにはたくさんのお知り合いがいると思いま

すが、安心してご入会下さい。当クラブは会員の仲がよく、先輩後輩の壁もなく、気安く話ができる素晴らしいクラブです。委員会活動も活発ですので委員会にもぜひ参加して、たくさんの方の交流をしてくださいますようお願い申し上げます。

ご存知かと思いますが、ロータリーは出席が義務と言われておりますが、出席は義務ではなく権利と思われ、これからは時間が許す限りご出席を賜りますようお願い申し上げます。残りが半月ですが、なにとぞよろしくお願いいたします。

委員会は、親睦委員会石井委員長、よろしくお願いたします。

退会のご挨拶

日本銀行釧路支店 鈴木 正信支店長



皆さま、こんにちは。日本銀行の鈴木です。この度、発令がありまして私は日本橋の本店に帰ることになりました。1年に満

たない間でしたが、歴史と伝統のある釧路ロータリークラブのお仲間に入れていただきまして本当にありがとうございました。

この1年を思い返すと、私はロータリアンとしての活動はほぼできていないと思っております。一方で行ったことといえば、酔って記憶をなくし、大先輩を絡み倒したことであります。もう一年あれば、その分を返すべく汗をかきたいと思っていたところでの異動で、はなはだ悔しい思いでいっぱいです。

私に課せられた使命、そんなに構えてどうするのだと言われそうですが、十勝生活を含めた3年間で魅了されつくしたこの道東の魅力を道外の方々にしっかりPRすること、これを残りの人生をかけてやることだと思っておりますので、自称・道東PR大使として頑張ったい道東の発展にも微力ながらお手伝いをさせていただきますと思っております。

本当に一年間、お世話になりました。ありがとうございました。

北洋銀行釧路支店 牧田 知也支店長

皆さん、こんにちは。北洋銀行の牧田です。2年3カ月、短い期間でしたがけれども歴史と伝統のある釧路ロータリークラブ



の仲間に入れていただいたことに感謝申し上げます。

■本日のプログラム■

会員卓話 北海道新聞社 釧路支社 支社長 三宅 康夫 君

着任早々は、ロータリーが初めての体験で、右も左も分からずうろろしていましたけれども、皆さんから温かいお声かけをいただき釧路の皆さんの懐の深さをしみじみ感じた記憶をしております。

入会して最初に親睦委員会に入れていただいて、微力でしたけれどもいろいろな行事のお手伝いをさせていただきました。一番記憶に、思い出に残っているのは田坂君と豆まきの鬼の役でタイツをはいて鬼の面をかぶってやったのが楽しい思い出だと思っています。

今度は札幌の本店の事業戦略部に行きます。仕事は営業店のサポートで、私が言われているのは釧路も入っているのですが、帯広、函館、旭川など大型店の支店長のサポートを行ってくれと言われております。釧路にも出張で来る機会もあると思っています。そこで機会がありましたら、また皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。

後任は本間という者が来ます。年齢は55歳で、課長時代に釧路中央支店に勤務していました。5年前に店舗を締めましたけど鳥取支店の最後の支店長もやっております。今回が3回目の勤務となる、そんな男がまいります。ご入会させていただければ、ぜひ皆さんには温かく迎えてあげていただければと思います。

本当に短い間でしたけれども、大変お世話になりました。

ごあいさつ

西村 智久君



先日の母の葬儀に際しましては、たくさんの方にお参りいただき、また、過分なご香料をいただきました。誠にありがと

うございます。

本日より、私はロータリーに復帰し、夜の街にもチョロチョロすると思います。まだ49日が過ぎていないので、仏教界ではあまりいいことではないと思いますが、長くのお付き合いがあるもので申し訳ありませんが現場復帰しますのでよろしく願いいたします。

どうもありがとうございました。

プログラム委員会 瀧波 大亮委員長

皆さん、こんにちは。先日、道東自動車道を走っていたところ、移動オービスに激写されました瀧波です。僕は、5台が連なっているうちの2番目を走っていたのですが、1台目から5台目まで全員が激写されました。10台走っていれば10台、100台走っていれば100台が一網打尽ですので、追尾していれば安心と思わずに法定速度を守っていただければと思います。

プログラム委員会の今年最後の担当例会となります。皆さん、一年間お付き合いいただきありがとうございました。

そのトリを飾りますのは、先々月に入会していただいたばかりの北海道新聞社三宅会員による会員卓話となります。引き出しが大変多い三宅会員ですので、皆さん、楽しい時間を過ごしていただければと思います。

それでは、三宅会員、どうぞよろしく願いいたします。

会員卓話

北海道新聞社 釧路支社 支社長 三宅 康夫 君



ただいまご紹介に与りました北海道新聞社の三宅と申します。諸先輩を前にして、私ごときが、しかも今の紹介にあつたとおり、4月に入会したばかりなのに皆さんを楽しませるような話ができるかどうか、自信がないのですけれども。あまりふざけた話をする訳にもいきませんので、興味のない方には全く興味がない話になるかもしれませんけれども、20分程お付き合いをいただけたらと思います。

今日、どんなお話をさせていただくかということ、記事にもなっていますが、道新の本社の移転が去年の11月にありました。立派な新社屋を建てて偉いでしょ、という自慢の話ではなく、皆さんの誤解を解きたいのは「道新は皆に読まれなくなっているのに、新社屋を建てる余裕があるのか」というところなのです。

実は、まさにそのとおりで、今回の新社屋を建てたのは儲かっているから新しいビルを建てたというのではなく、儲かっていないので、自分たちは一等地から出て行って、札幌の端のほうに移って、北洋銀行さんの巨大な新社屋のある西3丁目を商業ビルとして開発して、そこで儲けて行こうという話なのです。いかにわが社が苦しんでいるかという話を恥ずかしながらさせていただけたらと思います。20分くらい耳を傾けていただけたらと思います。

まず、道新はそもそもどういう会社か、基本的なところをご紹介させていただきます。

今年で創刊 83 周年。本社の所在地は去年の 11 月から移りました。部数は 73 万部で、業界全体で第 7 位。47 都道府県で日刊の新聞を発行している会社は約 100 社があります。その中の 7 番目となっております。正社員が約 1,100 人。この他に、嘱託、アルバイト、契約を含めると 1,500 人くらいが働いている会社です。

今は 73 万部ですが、一番多い時の 2005～2006 年ころには 125 万部ありました。夕刊が 75 万部ありました。当時はミリオンペーパーどころか、朝夕を合わせて 200 万部という部数があったのですが、北海道の人口減少が加わり、いろいろな諸事情があって今は朝刊だけの 73 万部という新聞社になっています。

では、6 番目はどれくらいのところでしょうか。1 番の読売新聞が約 570 万部。全盛期には世界一の発行部数が 1,000 万部ありました。それがほぼ半減してしまった状況です。皆さんは、「朝・毎・読」と言うのですが、新聞界の序列では、毎日新聞がもっと下で、読売が 500 万部、朝日が 330 万部、3 番目が名古屋の中日新聞なのです。中日新聞を入れて部数の三大新聞社となります。中日は名古屋だけではなく、北陸や東京でも発行しています。その下に毎日新聞、一般紙ではありませんが日経新聞が来て、いま話題の産経グループの産経新聞が来て、次が道新です。

これを踏まえて、新本社の話に移らせていただきます。場所です。旧本社ビルが大通り西 3 丁目。こちらに北洋銀行さんの格好いいビッセというビルがあります。巨大な、道新を見下ろすような牧田さんのビルがあるのです。

ここに時計台があって、こちらが札幌市役所です。一応、札幌の中では銀座 4 丁目と言われるくらいにこの周辺の地価が高い、一等地なのです。ここからこちら、この辺の地主は北電さんで、桑原さんの土地です。われわれは、ここには入れないので、グーッと東に寄せられて、わが社で買える土地というと、牧田さんの北洋さんにたっぷりお金を借りて、こちらに安普請のビルを建てたのです。

札幌はテレビ塔、大通り、この辺がいい会社、儲かっている会社さんが集まっている所で、東に行けば行くほど最近では元気がないと言う会社が集まっています。ですけど、一応、「創成川イースト」というブランドを作って、「勝手に格好いい地区になるかな～」なんていう思いを持ちながら、われわれは東側に移りました。これまた、われわれの予想と外れて新聞社として情けない話なのですが、オリンピックと同時に 30 年に札幌に新幹線が通って、新幹線の駅は創成川イースト側に作ることに決まっているのです。いままさに、出来上がってきているところですが、結局、いろいろ

な話があって 30 年にできるはずのものが早くて 38 年。俱知安のほうにスゴイ岩盤がたくさんあるということで、多分、40 年は過ぎてしまうだろうと言われていたのです。新幹線効果を期待してこちらに移ったという理由もあるのですが、それも全くあてが外れてしまったという厳しい状況でございます。

なんでこの話をしているのかと言いますと、4 年ぶり 2 回目の釧路ですが、2021 年に釧路を一旦離れて、4 年経ってまた来たのですが、戻った時に本業の仕事しながら会社の中の新本社建築プロジェクトの主要メンバーにもなっていたので、この辺の話をできるくらいの能力が少しあるのかなと思って今回、その話をさせていただきます。

4 年越しにいろいろなことを練って、新本社ビルがやっと建ったのです。それがこのビルです。大通駅のひとつ東側の駅、地下鉄東西線のバスセンター前駅に無理やり地下直結で、地下鉄を出たらすぐ道新に上がれるということにしたのです。こちら側は、人があまりなくて寂しい所なのです。一見、大きく見えるのですが、このロータリーの方々の中には建築関係の方がたくさんおられますので、見たらすぐ分かるかもしれませんが、非常に安普請の作りで、建築資材が高騰して高騰してこの 4 年間で何度設計図を作り直したのか。最初は、ここは全部ガラス張りの予定だったので。造作のガラスってすごく高いですね。ガラス代は払えないので、ここは塞いでしまおうとなって塞いでしまったのです。塞いだのに理由を付けないと格好が悪いなど冗談半分ありました。

皆さんに新聞紙面を見ていただくと、ここに縦に北海道新聞と題字が入って、一面トップの記事があって、特集などがあってというページの作りに似せたように、強引に解釈を変えて、新聞社なので新聞のページらしい本社にしようと、無理やりにそういう理由にしています。

地元江別産のレンガを入れた風景にしました。中はこんな感じです。ここはファミレス席と言われているのですが、普通の安いファミレス、ガストとかみたいな所の席で仕事をしています。と言うのも、一部の会社、皆さんの所では取り入れているかもしれませんが、この広いフロアは私がいた 5 階のフロアですが、ほとんどの人が「フリーアドレス」と言って自由席なのです。最近建てたビルの方は全国どこでもこのフリーアドレス制を導入していて、完全自由席なので先着順に朝来たら好きな所に座れるのです。これのメリットは部ごとに固まっていないので、いろいろな部の人先着順に座った結果、知らない部の人と垣根を超えているいろいろな話ができるメリットがあります。が、そんなにうまい話がある訳なくて、うちの会社は 9 時 30 分の出社なのですが、みんなの勤務時間が早まってしまっ、席を確保したいので私も 8 時 15 分くらいに

会社に行っているのです。どんどん早まって、早い人は7時前から来ているのです。勤務時間が逆に長くなってしまったということがあります。

私が出て来る直前はそうだったのです。結局、部ごとに席を決めて、部と部の不可侵条約を結んで、ここは三宅さんたちのエリア、ここは誰のエリア、とだいたい決めてその中で自由に座りましょうとなって、フリーアドレス制は目論見から外れて完全に崩壊しております。

私の前任でいた吉岡は、役員になったのですけれども、新しい社屋になって役員も個室はダメとなって平場に降りてきて、固定席ですが狭い所で大きい顔をして座っているという状況です。

そんなこんなで話をしましたが、これからが本題なのです。どうしてこっちに移ったのかと言うと、新本社ビルのどの部がどの階に入っているという話は、うちで使っているのは2階から5階しかないのです。9階建ての建物を建てたのですが、これしか使っていないので、ぎゅうぎゅうの所に詰め込まれて、狭くて仕事しにくいのはこの上ないのですが、元々の設計は、コロナでオンライン仕事をするようになったので、「社員は7割くらいしか出て来なくていいです」という設計になっているので、定員に対して7割の座席しか用意していないので、先ほどの先着順の朝早い出社になってしまうことで、今も席が足りない状態が続いているのですが、社員たちも飽きてきたので「もう、会社に出なくてもいいか」ということでなんとか足りているのです。

重要なのは、この6・7・8階は他社に貸して賃料で今の販売・広告の売り上げが減っている部分を賄おうと、たくさんお金を払ってくれる店子さんを探して、旧本社時代からたくさん払ってくれている、言っただけかもしれないけど、三菱UFJさんが3フロアを全部使ってくれています。

こうやって自分のビルのフロアを目一杯貸してお金を儲けて、ここはここで儲かるのですけれど、われわれの本来の目的は最初に示した大通西3丁目に、今のところ19階のツインタワーの、牧田さんのビルより背が低めの作りで作りますが、大通側に高級ホテルを持ってきて、こちらにオフィスビルを作ることで、

ここは一切道新では使わず、他の人に入ってもらって、その収益を新聞製作のために使うことで購読者数の減少、広告売上げの減少を賄うためのビルをここに建てるので、あなたたちはここにも一銭にもならないので出てくださいというのが本音の話なのです。ここは完全な収益源として行います。

ちなみに、収益源として当社で一番活躍してくれているのは、東京銀座6丁目にあるルイ・ビトンの大きいビルがありますが、この土地と建物は北海道新聞の東京支社だったのです。そこも、社員がいても金にならないということで、ビル1棟丸ごとルイ・ビトンに貸して莫大な賃料収入をいただいています。全く社員割引も何もありません。あの本店は予約した人でないと入れないくらいのすごい所なのです。そこも賃料収入としてあてにしている所です。

今の新聞社の経営は非常に苦しくなっていて、左うちわで部数が増えて行った右肩上がりの時代は終わって、販売収入、広告収入以外でいろいろ収益を得て行かないと、きちんとした新聞を発行できないのです。お金がないと、お金が欲しいがために広告主の意向に左右されて、提灯記事を書いてばかりということではなく、自分たちは「確固たる経営基盤があるので大丈夫ですよ」と言える作りに行きたいということで、本社ビルを建ててみました。

札幌に行った時には、他社の方の研修なども受け付けたりしていますので、吉岡がここに陣取っていますので吉岡に言っていただいてもいいし、私に声を掛けていただいてもいいので、近くに来た折には寄っていただけたらと思います。

83年間、大通でやってきて、ちょっと都落ち感はありますが第二の創業の地として、ここで道民の皆さんに受け入れられるように、これからの新聞社は紙の新聞ではなくデジタルも含めて北海道の情報産業としてどういう紙面づくりをして行けばいいのかを皆さんと一緒に考えて行って、決してお金がないから刷れませんとならないように頑張っていこうと思っています。

今日は、ご清聴ありがとうございました。つまらない話に付き合ってくださいましてありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 土橋 賢一君 32歳の息子が結婚しました。
- 前田 秀幸君 長嶋さんの追悼関連ニュースで全国ネット放送に恥かしながら、出てしまいました。
- 曾我部元親君 初めてホールインワンを達成しました。
- 田中 弘明君 初孫誕生。おじいちゃんになりました。
- 牧田 知也君 短い間でしたが大変お世話になりました。私の後任も宜しくお願い致します。

今年度累計 514,000円